



ふくみんの 突撃インタビュー!

あすわ地域生活 支援センター 編

「利用者さんの世界を広げる」

今回は、あすわ地域生活支援センターの松井さんと小林さんに、ボランティア活動の様子をインタビューしました!



▲あすわ地域生活支援センターの小林さん(左)、松井さん(右)

Q あすわ地域生活支援センターはどんなところですか?

A 障がいのある方が、仕事先などから帰ってきて、生活を送っているグループホームが、14ヶ所あります。今年度は少人数化し、1つのグループホームに10人以下の利用者さんが生活できるよう取り組んでいます。自分の家のような、落ち着いたアットホームな雰囲気です。

Q ボランティアさんにメッセージを!

A 職員にはできないことをできるのがボランティアさんです。ゆっくりお話していただくことで、利用者さんのコミュニケーションの幅が広がり、新たな一面を発見することができます。また、ボランティアさんの特技を活かした活動をしていただくことで利用者さんの世界も広がります。

活動を通して、利用者さんのことをたくさん知っていただきたいと思います。純粋で優しい利用者さんと一緒にお待ちしています。楽しみながら活動しましょう。

Q どんなボランティア活動がありますか?

A お散歩などの外出支援やちぎり絵をするボランティア活動、編み物・大正琴などボランティアさんの得意なことを生かした活動、夏祭りやマラソンなど大きな行事でのボランティア活動があります。夏休みの時期にはサマーボランティア体験も受け付けています。

ボランティア活動のお問い合わせは、下記までお気軽にご相談ください!
<お問い合わせ>

社会福祉法人 足羽福祉会 あすわ地域生活支援センター(梅野町 20-5)
TEL 41-0013(担当 松井さん) FAX 41-0014
Eメール chiiki@asuwafukushikai.jp

ボランティア 豆知識

「ヘルプマーク」や 「障がい者用防災スカーフ」って何?



病気や障がいが見えにくい方が、周りの方に支援や配慮が必要であることを伝えるために「ヘルプマーク」や「障がい者用防災スカーフ」を持っているのをご存知ですか?

日頃から携帯し災害援助に活用するため、福井市では、市民等から寄附を募り「障がい者用防災スカーフ」を作成しました。

現在、市内に暮らす方や通勤通学されている方で、耳が不自由な方や発達障がい児者、難病など外見から病気や障がいがあることがわかりにくい方(希望者約350人)がお持ちです。災害時にはスカーフを羽織って、配慮などを呼びかけ、普段は折りたたんでポケットに収納し、ヘルプマークが見えるよう身につけることができます。

ヘルプマークを身につけた方を見かけた場合は、バスや電車内で席を譲ったり、万が一、災害が起こり避難所等でこのスカーフを羽織っている方を見かけた場合は、配慮してほしいことに注目し、思いやりのある行動をお願いします。

また、市障がい福祉課では、書き込めるヘルプマークとしてヘルプカードの配布も行っています。障がい者用防災スカーフとともに配布をご希望の方は、下記までお問い合わせください。(配布枚数に限りがあります)

■スカーフの使い方の詳細は、(株)横山工芸ブログ

(<https://www.taiko-costumes.jp/blog/2019/04/10/fukuiscarf/>) をご覧ください。

<お問い合わせ>

福井市障がい福祉課
TEL 20-5435
FAX 20-5407

福井市で配布している▶
ヘルプカード



▲スカーフには病気の症状や支援がほしいことなど自分で書き込めます。



▲タブにひもやチェーンを通せば、かばん等に付けられます。